



## 東京芸術祭ファーム2022 Farm-Lab Exhibition

### y/n演出による「教育」をテーマにした新作 参加者（出演者）募集

〔応募締切 2022年6月27日(月)17:00（日本標準時）〕

y/n（橋本清+山崎健太）とともに作る新作パフォーマンスの創作トライアルに参加するアジア拠点の出演者を募集します。

Farm-Lab Exhibitionは、アジアを拠点に活動する若手アーティストが、文化、国籍やバックグラウンドがさまざまに異なるメンバーと行う創作トライアルプログラムです。今年は2つのチームが東京で滞在制作を実施します。

- セリーナ・マギリュウ演出作品（日本以外のアジア拠点のアーティストが演出を担当 / 日本国内を拠点に活動する出演者を公募）
- y/n（橋本清+山崎健太）演出作品（日本拠点のアーティストが演出を担当 / 日本以外のアジアを拠点に活動する出演者を公募）

| 東京芸術祭 Webサイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業   
協賛：アサヒグループジャパン株式会社

## 作品について

### テーマ：教育

「教育」をテーマに新作パフォーマンスをつくります。y/nがこれまでにつくってきた作品はすべてレクチャー・パフォーマンスと呼ばれる形式で上演され、公演後には毎回、y/nと観客との間でQ&Aの時間も設けてきました。「レクチャー（パフォーマンス）」や「Q&A」という形式はもちろん「教育」と強い結びつきを持っていて、その意味ではy/nはずっと「教育」について考えてきたとも言えるかもしれません。しかしここでの「レクチャー（パフォーマンス）」や「Q&A」は一方向的な「正解」の伝達を意味せず、観客とのやりとりを通じて作品もy/nも変化してきました。教育には情報伝達の側面がありますが、単に情報を伝達するだけでは縮小再生産に陥ってしまうはずですが。そうならないのであれば、そこでは何が起きているのか。優れたパフォーマンスもまた、情報伝達（たとえば「反戦」や「反差別」といったメッセージを伝える）以上の何かを上演の場において生じさせるものです。教育について考えることとパフォーマンスについて考えることは（少なくともy/nにとっては）ダイレクトにつながっています。今回の新作では形式をレクチャー・パフォーマンスに限定するつもりはありませんが、観客とどのように、どのような関係を結べるのかということについては引き続き、出演者の方と一緒に考えたいと思っています。

今回の創作ではy/nが構成・演出を担当しますが（橋本は出演もする予定）、作品の素材やアイディアは出演者とy/nとの話し合いのなかから見つけていくつもりです。それぞれが体験してきた「教育」、それを支える社会的な制度や習慣、それらについて考えてきたこと。異なる文化的背景を持つ私たちが話し合うことで「教育」についての新しい視点が得られることを期待しています。クリエイションの過程と作品の上演を通して、y/nと出演者が、アーティストと観客が、互いに影響を与え、変化していくことのできる場をつくり出せましょう！

y/n（橋本清+山崎健太）

## ■ クリエーションについて

y/nのクリエイションでは、テーマに関連して参加者の体験やエピソード、考えていることを全員で持ち寄り、それらをもとにテキストを構成・編集（そしてときにフィクションに加工）することで上演台本を作っていきます。

## ■ プロフィール

### y/n（橋本清+山崎健太）

2019年結成。演出家・俳優の橋本清と批評家・ドラマツルクの山崎健太によるユニット。リサーチとドキュメンタリー的手法に基づいて私的な領域の事柄を社会構造のなかで思考するパフォーマンス作品を発表している。ユニット名はyes/noクエスチョンに由来し、二項対立や矛盾、答えに達する以前の状態を意味する。これまでの作品に男性同性愛者のカミングアウトを扱った『カミングアウトレッスン』（2020）、セックスワーカーと俳優の仕事をも扱った『セックス／ワーク／アート』（2021）、日本における手品の歴史を扱った『あなたのように騙されない』（2021）がある。



撮影：山端拓哉

#### 橋本清 HASHIMOTO Kiyoshi

東京（日本）

1988年生まれ。演出家／俳優。日本大学芸術学部演劇学科演出コース卒業。2007年、ブルーノプロデュースを立ち上げ。2012～15年、坂あがりスカラシップ対象者。近年の演出作品に青年団リンク キュイ『景観の邪魔』（2019）、青年団若手自主企画 櫻内企画『マッチ売りの少女』（2020）。出演作に小田尚稔の演劇『是でいいのだ』（2016～22）、生西康典『棒ダチ 私だけが長生きするように』（Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13「TOKYO REAL UNDERGROUND」川口隆夫ディレクション企画「舞踏 ある視点」）（2021）、お布団CCS/SC『夜を治める者《ナイトドミナント》』（2022）。



撮影：山端拓哉

#### 山崎健太 YAMAZAKI Kenta

東京（日本）

1983年生まれ。批評家／ドラマツルク。演劇批評誌『紙背』編集長。主な批評に「現代日本演劇のSF的諸相」（『SFマガジン』連載、2014年2月～2017年2月）、「『かっいいい』だけではない三島へ——近年の上演から」（『文学界』2020年12月号）など。2017年度、国際交流基金アジアセンターの人材育成プログラム「Next Generation: Producing Performing Arts 次世代舞台芸術制作者等育成事業」に参加。WEBマガジンartscapeで舞台芸術を中心としたレビューを連載中。

## ▼ 過去作品



2021年度 城崎国際アートセンター アーティスト・イン・レジデンス プログラム  
y/n『カミングアウトレッスン』試演会  
城崎国際アートセンター（2021）  
撮影：bozzo



YPAMフリンジ2021参加公演  
y/n『あなたのように騙されない』  
SCOOL（2021）  
撮影：佐藤駿

東京芸術祭ファームのプログラムのひとつ「Farm-Lab Exhibition」は、アジアを拠点に活動する若手アーティストが、文化、国籍やバックグラウンドがさまざまに異なるメンバーとクリエーションを行い、東京芸術祭やアジア各地での上演を目指したワークインプログレスを発表する創作トライアルプログラムです。今年にはマニラ（フィリピン）を拠点に活動するセリーナ・マギリュー（東京芸術祭ファーム2021 Asian Performing Arts Camp 参加者）と、日本を拠点に活動するy/n（演出家・俳優の橋本清と批評家・ドラマツルクの山崎健太によるユニット）がそれぞれ演出を担当する2チームによる創作を行います。また、メンターとして、ダンスドラマツルクとして国内外で活躍する中島那奈子と、東京芸術祭ファーム共同ディレクターを務めるドラマツルクの長島確が創作をサポートします。

8月上旬よりオンラインクリエーション、9月下旬から東京で約10日間の滞在制作、10月上旬に東京芸術劇場アトリエイースト、アトリエウエスト（予定）にてパフォーマンス試作発表を一般公開し、観客からのフィードバックを受け、作品やアーティスト自身のステップアップを目指します。

※本募集概要はy/n（橋本清+山崎健太）の演出作品の応募者に向けた内容です。

## ■ 実施日程

期間：2022年8月4日(木)～10月10日(月・祝)

### ● Farm-Lab Exhibition 活動日程

	場所	日程
顔合わせ	オンライン (使用ツール：Zoom)	8月4日(木)16:00～18:00 (日本標準時)
オンライン稽古		8月9日(火)、8月12日(金)、8月18日(木)、9月6日(火)、9月13日(火)、9月20日(火) 時間未定
滞在制作	水天宮ピット (東京)	9月26日(月)-10月3日(月) 時間未定
パフォーマンス試作発表 (一般公開)	東京芸術劇場アトリエイースト またはアトリエウエスト	10月4日(火)-10月9日(日) ※この期間にリハーサルとパフォーマンス試作発表を実施する
ラップアップ / 修了式	東京芸術劇場アトリエイースト またはアトリエウエスト	10月10日(月・祝)

### ● 東京芸術祭ファーム2022 プログラム共通 活動日程

共通レクチャー、 顔合わせ、交流会 等	オンライン	8月17日(水)18:30～21:00 (日本標準時) 8月22日(月)18:00～20:00 (日本標準時) 8月29日(月)時間未定 9月2日(金)時間未定 10月16日(日)時間未定
------------------------	-------	--

※上記の他に、東京芸術祭のプログラムの鑑賞の機会等があります。日程は参加者に後日ご案内します。

※上記、活動日程以外にも、随時、Slack等で情報交換を実施します。

## ■ 渡航・滞在日程

- 日本国外在住者の日本滞在期間は、最長9月11日～10月11日を予定しています（詳細は下記の通り）。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、待機期間等に変更が生じる場合があります。

フライト、東京へ移動	最も早い日程 9月10日(土)～9月11日(日)
ホテル等での待機期間（最長14日間） ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、最長14日間は指定された場所での待機をお願いする場合があります。	最長 9月11日(日)～9月25日(日)
Farm-Lab Exhibitionの出演者として稽古場・会場で活動	9月26日(月)～10月10日(月・祝)
フライト、東京を出発	10月11日(火)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、実施内容に変更が生じる場合があります（例：東京での滞在制作を取り止め、オンラインでの実施に切り替える等）。東京での滞在制作が不可となった場合でも、実施内容や方法を調整の上、本プログラムは実施します。その場合にも、原則として実施日程や謝金等、参加に際しての条件の変更は行わない予定です。

## ■ 会場

クリエイション期間：オンライン（使用ツール：Zoom）、水天宮ピット（東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」より徒歩2分）

成果発表期間：東京芸術劇場 アトリエイースト、アトリエウエスト（「池袋駅」西口より徒歩2分）

## ■ 創作環境について

- 参加者同士のコミュニケーションは英語を使う場面が多くあります。主催者、スタッフは日本語でのコミュニケーションを必要とする者が多いため、稽古場、ミーティング等には原則として日英通訳が入ります。
- 滞在制作は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底して実施します。
- 下記のメンバーが、クリエイションやコミュニケーションのサポートを行います。

プロデューサー：多田淳之介（東京芸術祭ファームディレクター）

メンター：中島那奈子、長島確（東京芸術祭ファーム共同ディレクター）

コミュニケーションデザインチーム：Art Translators Collective

制作：Farm-Lab オフィス

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファームラボ ガイドライン」（[https://tokyo-festival.jp/tf\\_farm](https://tokyo-festival.jp/tf_farm)）に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

## 募集概要

### ■ 募集内容

y/n（橋本清+山崎健太）が演出を行う舞台芸術作品（創作トライアル）の出演者。パフォーマー、俳優、ダンサーなど（基本的にはパフォーマンスへの出演を前提としますが、ジャンルは問いません）。

### ■ 応募資格

次の1～7すべてにあてはまる方

1. 日本以外のアジアを拠点に活動している
2. 原則として35歳以下
3. 全ての実施日程（p. 3参照）に参加可能
4. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
5. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
  - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
  - グループビデオ通話、動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境
  - Zoomのグループビデオ通話\*、Slack、One Drive が利用できる端末（使用ツールは参加者の状況やプログラム内容に応じて追加、変更となる可能性あり）  
\*Zoomの使用に必要なシステム要件：<https://support.zoom.us/hc/ja/articles/201362023>
  - スマートフォンのみでの参加は非推奨
6. 日本への渡航・滞在に必要な手続きに協力ができる（かかる費用は自己負担）
  - 日本側での在留資格認定証明書取得に必要な情報の提供（パスポート情報、ワクチン接種状況等）
  - 海外現地の在外公館へのビザ申請手続き
  - 出国72時間前以内のPCR検査
7. 以下の姿勢および関心を持っている
  - 英語でのコミュニケーションに積極的に参加する姿勢
  - バックグラウンドや価値観が異なる相手との対話を通じて新たな発見を得たいというモチベーション
  - 国際協働におけるコミュニケーションについて考え、実践することへの関心
  - 今後も国際的な舞台芸術の分野で活動を続ける意思
  - パフォーマンスが観客にどのように働きかけるか、パフォーマンスの場において観客とどのように／どのような関係を結べるのかということに関心がある

## ■ 謝金

10万円（海外送金手数料・税金等を含む）

## ■ サポート

- 日英通訳：オンライン稽古、滞在制作中の稽古場、スタッフとの打ち合わせ等  
※Slack等でのメッセージのやり取りや、滞在制作中の稽古場以外での日常的なやり取り等、通訳が入らない場面も多くあります。
- コミュニケーションデザインチームによるサポート：多文化・多言語をまたいだ共同制作を円滑に行うため、多文化間コミュニケーションについてのレクチャーや、参加者間でのコミュニケーションのルールづくり、活動内のコミュニケーションに関する相談・対応 等を行う

< 以下は日本国外に在住している場合のみ対象 >

- プログラム期間の宿泊提供（来日後の待機期間を含む）
- 居住地の最寄りの国際空港から東京の国際空港間の往復航空券、東京の国際空港と滞在場所間の往復送迎

## ■ 募集人数

3名程度

## ■ 選考スケジュール

演出 y/n、東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介、東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確による選考を行います。

応募受付	<b>応募締切：2022年6月27日(月) 17:00 (日本標準時)</b> ・オンラインのフォームにて受付
一次選考 書類審査	結果発表：2022年7月4日(月)までにメールにて合否を通知 ・応募時の内容をもとに選考を実施
二次選考 面接+プレゼンテーション (日⇄英 通訳あり)	選考実施日：2022年7月11日(月)～15日(金) ・各日14:00～18:00 (日本標準時) で実施予定 ・オンラインにて実施 (使用ツール：Zoomを予定) ・詳細は、一次選考通過者にご連絡いたします
参加者(出演者)決定	結果発表：2022年7月18日(月・祝)頃にメールにて合否を通知

※合否に関わらず、選考の結果は応募者全員にメールで通知します。必ず、Farm-Lab オフィスからのメール (farm@tokyo-festival.jp) が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。

## ■ 応募方法

①以下のエントリーフォームより、氏名、メールアドレスをご登録ください。

エントリーフォーム <https://form.run/@fle2022-entrvyn>

②①登録後に届く自動返信メールに記載の応募フォームに、以下の内容を記入の上、ご応募ください。

(必要事項は次ページ)

## 〈必要事項〉

※英語または日本語で回答してください。

※日本語を母語とする方は、設問番号に「\*」がついた設問は日本語と英語の両方で回答してください（回答内容は可能な範囲で同一の情報を記入してください）。

1. 氏名もしくはアーティスト名
  - 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he, she, they、名前 等 / 自由記述)
2. 国籍
3. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
4. 最寄りの国際空港 (日本国外在住者のみ)
5. 生年月日
6. メールアドレス
7. 連絡先住所 (日本在住者のみ / 日本語で記入)
8. 日中連絡のつく電話番号
9. 職業 (所属 等)
- 10\*. アーティストプロフィール (英語120ワード以内、日本語300字以内)
11. アーティスト写真 (画像形式: jpgまたはpng / データサイズ: 5MB以下)
12. ウェブサイト (あれば)
13. これまで関わった作品の動画リンク (YouTube、Vimeo等 / あれば)
  - その作品における自身の役割
  - その作品の概要 (英語400ワード以内、日本語800字以内)※必要に応じて閲覧制限を設定してください。
14. 応募動機 (英語150ワード以内、日本語400字以内)
15. 「教育と芸術」というテーマで自身の体験や考えていることなどについて自由に書いてください。  
(英語200~500ワード、日本語400字~1000字)
16. y/n『カミングアウトレッスン』の映像を観て考えたことを書いてください。  
(英語400ワード以内、日本語800字以内)  
※エントリーフォームへの登録後、動画視聴用のURL (YouTube) を共有します。
17. 自身の英語でのコミュニケーション力 (選択式)
  - a. 簡単な自己紹介や相手との会話ができる
  - b. ある程度準備しておけば、自分の活動の内容を説明することができる
  - c. 自身の専門分野において、抽象的な概念も用いながら考えや意見を述べるすることができる
  - d. cをもとに、議論を発展させていくことができる
    - 上記の回答に関する補足 (自由記述 / あれば)
18. オンラインミーティング等に使用する機材 (選択式)  
※オンラインでの活動に必要な環境は「応募資格」(p. 4)を確認してください。
19. 参加に際して使用するネットワーク環境
20. 二次選考期間 7月11日(月)~15日(金) 各日14:00~18:00 (日本標準時) の内、審査に参加できない日時 (あれば) ※日本標準時で回答してください。
21. 東京芸術祭ファームの他プログラムで応募を予定している、または応募済みのもの (あれば)  
※同時募集している他プログラムへの併願は可能です。
22. 応募にあたっての連絡事項など (あれば)

## ■ 留意事項

お預かりした個人情報は厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

## 東京芸術祭ファーム 2022 テーマ 「都市をほぐす／Unlearning Cities」

### 「都市≠集い」

2022年の東京芸術祭ファームは「都市をほぐす／Unlearning Cities」をテーマに開催します。昨年のテーマ「都市の価値／Why Cities?」での“問いかけ”から、今年は〈都市＝集い〉の価値観を捉え直す積極的な“行為”でありたいという思いを込めました。近年東京芸術祭ファームが取り組んできたオンラインを活用した国際的なプログラムの成果発表を見ても、オンラインの目的や役割が“情報や時間の共有”から“行為や体験の創出”へ変わっているのを実感します。集まらなくてもできることは今後ますます増え、これまでの価値観を手放すならば、もはや都市に集う必要は無い〈都市≠集い〉が前提なのかもしれません。それでも都市が果たせる役割は多様性の担保ではないでしょうか。受け入れる量ではなく幅によって誰もが存在し集まることができる機能には、これからの都市の可能性を感じています。

今年のプログラムでは、国際クリエイションのチームを2チームに増やしフィールドやバックグラウンドの異なるメンバーでの様々な協働の可能性にトライします。

2ヶ月にわたるオンラインアートキャンプはアジアから参加者を公募し、日本国内からは国際クリエイション現場のアシスタント・インターンや一部プログラムへのビジター参加も可能です。学生対象の教育普及プログラムにもご期待ください。そしてガイドラインに基づき、ハラスメントの防止やセーフスペース作り、舞台芸術の環境作りに取り組めます。

先の見えないまま進む2020年代、ならば見たい未来を自分たちで作る、東京芸術祭ファームはそのための場所です。ぜひ、お集まりください。

2022年6月  
東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



### 新しい共存と協働の場へ向けて

常識（共通感覚、common sense）が大きく変わりつつあります。アートの現場に限っても、これまで当たり前だと思われていた感覚や考えが通用しなくなってきました。かつて有効だったやり方が、機能しないばかりか、害を与え始めています。それらはおそらくこれまでも無害だったわけではないのですが、なんとなく見過ごされていたのが、いまでは明らかに人を傷つけたり、何かを破壊するだけのものになっています。

こうした感覚の変化はパンデミック以前から始まっていました。それがこの2年半に及ぶ行動様式と価値観の根底的な「洗い直し」により明確になったのだと思います。

この2年半の間にわたしたちが経験してきたのは、新しいことの学習というよりも、知らぬ間にすでに身につけてしまっていたものの「脱学習」、アンインストールだったのだといえます。これまで無自覚に、無批判に、享受し行使してきたものに、いったいどんな価値があったのか／なかったのか、いったん体から抜き、解きほぐし、検証し直す時間でした。そのうえであらためて、フェアで、みなさんの幸福につながるような集団創作や協働の形を、自分たちの手でどのようにして作るのか。他者との共存と交流の象徴としての都市を、どうやって再発見・再構築するのか（する必要があるのか?）。今年のテーマ「都市をほぐす／Unlearning Cities」に、わたしはそんな期待を込めています。

東京芸術祭ファームは、社会全体の大きな変わり目にあって、従来のやり方への違和感と変化への期待をもつ人が集まって、土を耕し、種を蒔き、苗を育てるための場です。われこそはと思う人はぜひ参加してください。

2022年6月  
東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確



## コミュニケーションデザインについて

東京芸術祭ファームでは、国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、その出自や立場に関わらず参加者全員が安心して創作に挑める環境を整えるため、企画の段階からコミュニケーションデザインチームがプログラム設計に関わっています。

2022 年度コミュニケーションデザインチーム

Art Translators Collective

チーフ：田村かのこ

メンバー：山田カイル、水野響、春川ゆうき、森本優芽、植田悠

<取り組みの一部>

### ■東京芸術祭ファーム ラボ ガイドラインの導入、整備

差別やハラスメントなどの人権侵害の発生を防止するためのガイドラインを制定し、東京芸術祭ファーム ラボに関わるすべての人にその遵守をお願いしています。また、ガイドラインの内容は毎年見直し、より良いガイドラインの制定に努めています。

### ■希望するジェンダー代名詞の確認、ジェンダーアイデンティティの尊重

ミスジェンダリング\*を防ぐため、昨年からの募集要項には自分が使って欲しい代名詞（代名詞を希望しない場合には名前等）を記述式で書き込めるようにしています。創作期間中も、それぞれの代名詞を尊重するために、知識と意識の共有を徹底していきます。

\*本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをする差別行為（例：見た目性別を憶測して判断した人称代名詞や敬称を相手に用いる）

### ■言語やコミュニケーションの多様性を尊重したアート・トランスレーション

アジアの国々からの参加者が集まる東京芸術祭ファーム内でのコミュニケーションには、共通語として「英語」が用いられますが、土地や文化により英語のあり方も多様です。コミュニケーションデザインチームは、それぞれの話す英語を尊重し、英語が流暢な人もそうでない人も対等に話せるような環境を設計し、言語の変換にとどまらない通訳・翻訳を行います。また、文化の違い等によりコミュニケーションの取り方もさまざまです。一つの文化マナー（たとえば日本の常識）に人々を従わせるのではなく、それぞれの持ち寄る観点からこの場に必要コミュニケーションのあり方を探っていきます。

### ■学習機会の提供

以上の取り組み等について、参加者が事前に必要な知識をつけるためのガイダンスやレクチャー、ワークショップを実施します。

## 東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであった APAF（Asian Performing Arts Farm）にフェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し 2021 年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーでさまざまなプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム 2022 ページはこちら [https://tokyo-festival.jp/tf\\_farm](https://tokyo-festival.jp/tf_farm)